

【 復活讃詞 第2調 】

しせざるいのちよ、なんぢしにくだりし
死 生 命 爾 死 降

とき、かみのせいひかりにてぢご
時 神 性 光 地 獄

くをころせり。しせしものをちかよ
殺 死 者 地 下

りふくかつせしめしとき、てんぐんみな
復 活 時 天 軍 皆

よびていえり、いのちをたもうしゅ
呼 曰 生 命 賜 主

ハリストスわがかみよ、こうえいはなんぢに
吾 神 光 榮 爾

き ず。

き 歸

【 列祖のトロパリ 第2調 】

こうえいはちちとこ と せいしんにきい
光 榮 父 子 と 聖 神 歸

す、

ハリストスか みよ、なんぢはれっそをしんによりてぎ
神 みよ、 爾 列祖 信 由 義

なるものとなあし、かれらをもつてしよ
 者 爲 彼 等 以 諸
 民 教 會 聘 定 給
 せいなるものはこうえいにていわあ
 聖 者 光 榮 在 祝
 う、けだしそのたねよりしゆくふくせられた
 蓋 其 種 祝 福
 るみはいでたあり、これたねなくなんぢ
 果 出 是 種 爾
 をうみしものなあり。かれらのきとう
 生 者 彼 等 祈 禱
 によりてわれらをすくいたまあえ。
 由 我 等 救 給

【 列祖のコンダック 第6調 】

いまもいつうもよよに、アミン。
 今 何 時 世 世
 みえにふくたるものはてのしるしたるかたち
 三 重 福 者 手 記 像
 をうやまわらずして、しるされぬしんせいに
 敬 記 神 性

ようごせられて、ひのげきじょうにえいを
 擁護 火劇場 榮
 えたあり。かれらはたえがたきほのお
 獲 彼等 堪難 焰
 のうちに立ちて、かみをよべり、ああかん
 中 た 神 呼 鳴呼 寛
 ゆうのしゅうよ、いそげ、じれんなるによ
 宥 主 急 慈憐 因
 りてすみやかにわれらをたすけたまえ、
 速 我 等 助 給 え、
 なんぢはほつするところよくせざるなあし。
 爾 欲 所 能

【 聖三の歌 】

代禱) ^{しゅ}主よ、^{けいけん}敬虔なる^{もの}者を^{すく}救い、^{およ}及び^{われら}我等に^き聆き^{たま}給え、

しゅよ、けいけんなるものをすくい、およびわれ
 主 敬 虔 者 救 及 我
 らにききたまえ。
 等 聆 給

代禱) ^{よよ}世々に、

アミン。

【 聖三祝文 】



せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる
 聖なる神、聖なる勇者、聖なる
 じょうせいのもものよ、われらをあわれめ
 常生者我等を憐
 よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい
 聖なる神、聖なる勇者、聖
 なるじょうせいのもものよ、われらをあわれ
 常生者我等を憐
 めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、
 聖なる神、聖なる勇者、聖
 なるじょうせいのもものよ、われらをあわ
 常生者我等を憐
 れめよ。こうえいはちちとこせいしん
 光栄は父子聖神
 にきす、いまもいつもよよに、アミン。
 歸今何時世世
 せいなるじょうせいのもものよ、われらをあわ
 聖常生者我等を憐
 れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう
 聖なる神、聖なる勇者
 き、せいなるじょうせいのもものよ、われらを
 聖常生者我等を

あわれめよ。
憐

【 提綱 (プロキメン) 諸祖の歌 第4調 】

代禱) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{しゅわ} ^{せんぞ} ^{かみ} ^{なんぢ} ^{さんよう} ^{なんぢ} ^な ^{よよ} ^{さんび} ^{さんえい}
 プロキメン、主我が先祖の神よ、爾は讃揚せられ、爾の名は世々に讃美讃榮せら
 る、

しゅわがせんぞのかみよ、なんぢはさんようせ
 主我先祖神 爾 讃 揚
 られ、なんぢのなはよよにさんびさんえいせ
 爾 名 世 世 讃 美 讃 榮
 らる。

誦經) ^{けだし} ^{なんぢ} ^{およ} ^{われら} ^{おこな} ^{こと} ^{おい} ^ぎ
 蓋 爾は凡そ我等に行いし事に於て義なり、

しゅわがせんぞのかみよ、なんぢはさんようせ
 主我先祖神 爾 讃 揚
 られ、なんぢのなはよよにさんびさんえいせ
 爾 名 世 世 讃 美 讃 榮
 らる。

誦經) ^{しゅわ} ^{せんぞ} ^{かみ} ^{なんぢ} ^{さんよう}
 主我が先祖の神よ、爾は讃揚せられ、

なんぢのなはよよにさんびさんえいせらる。
 爾 名 世 世 讃 美 讃 榮

【 使徒經 (アポストロス) 257 端 コロサイ書 3 章 4 節～11 節 】

代禱) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{せいしと} 聖使徒パヴェルが^{じん たつ}コロサイ人に^{しよ よみ}達する書の讀、

代禱) ^{つつし き} 謹みて聽くべし、

誦經) ^{けいてい なんぢら いのち}兄弟よ、^{あらわ}爾等の生命たる^{とき}ハリストスの^{なんぢら}現れん時、^{かれ}爾等も^{とも}彼と^{こうえい}偕に^{うち}光榮の中に^{あらわ}現

^{ゆえ なんぢら}れん。故に^ち爾等の^あ地に^{したい}在る^{ころ}肢体を^{すなわち}殺せ、^{いんこう}即淫行、^{おかい}汚穢、^{じゃし}邪侈、^{あくよく}惡慾、^{およ}及び^{たらん}貪婪、

^{すなわち}即^{はいごう}拜偶像^{これ}是なり、^{これら}此等の^{ため}爲に^{かみ}神の^{いかり}怒は^{さからい}悖逆の子に^こ臨む。^{のぞ}爾等も^{なんぢら}曩に、^{さき}彼等の^{かれら}中

^おに^{とき}居りし^{これ}時、^{おこな}之を^{いま}行^{なんぢら}えり。今は^{いかり}爾等も^{いきどおり}忿怒、^{うらみ}恚憾、^{そしり}怨恨、^{なんぢら}謗讟、^{くち}爾等の^{いだ}口より^い出

^はす^{ことば}愧づべき^{いつさい}言、^{これ}一切^き之を^{たがい}去れ、^{いつわり}互に^い謊を^{なか}言う^{けだし}勿れ、^{なんぢら}蓋^{ふる}爾等^{ひと}舊^{その}き人^{おこない}と^い其^い行^いと

^ぬを^{あらた}脱ぎて、^{ひと}新なる^{すなわち}人、^{つく}即^{もの}彼を^{かたち}造りし^{したが}者の^{ちしき}像に^{あらた}循^{もの}いて^き知識の^き改^きめらるる^き者を^き衣^きた

^{ここ}り。此には^{じんおよ}エルリン人^{じん}及び^{かつれいおよ}イウデヤ人、^{むかつれい}割禮^{ヴァルヴァロおよ}及び^{どれいおよ}無割禮、^{どれいおよ}夷狄^{どれいおよ}及び^{どれいおよ}スキト、^{どれいおよ}奴隸^{どれいおよ}及

^{じしゅ}び^{もの}自主の^{すなわち}者なし、^{いつさい}即^{およ}ハリストスは^{いつさい}一切^{うち}なり、^あ及び^あ一切^あの中に^あ在り。

(比較用 口語訳) 兄弟たちよ。わたしたちのいのちなるキリストが現れる時には、あなたがたも、キリストと共に栄光のうちに現れるであろう。だから、地上の肢体、すなわち、不品行、汚れ、情欲、悪欲、また貪欲を殺してしまいなさい。貪欲は偶像礼拝にほかならない。これらのことのために、神の怒りが下るのである。あなたがたも、以前これらのうちに日を過ごしていた時には、これらのことをして歩いていた。しかし今は、これらいつさいのことを捨て、怒り、憤り、悪意、そしり、口から出る恥ずべき言葉を、捨ててしまいなさい。互にうそを言ってはならない。あなたがたは、古き人をその行いと一緒に脱ぎ捨て、造り主のかたちに従って新しくされ、真の知識に至る新しき人を着たのである。そこには、もはやギリシヤ人とユダヤ人、割礼と無割礼、未開の人、スクテヤ人、奴隸、自由人の差別はない。キリストがすべてであり、すべてのもののうちにいますのである。

代禱) ^{えいち} 睿智、

誦經) アリルイヤ、

【 諸祖のアリルイヤ 第4調 】

司祭) ^{えいち} 睿智、

アリル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 、

ア リ ル イ ヤ 。

誦經) ^{しさい} ^{うち} 司祭の中に^{およ}モイセイ及び^{かれ} ^な ^よ ^{もの} ^{うち} 彼の名を呼ぶ者の中にサムイルあり、

アリル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 、

ア リ ル イ ヤ 。

誦經) ^{かれ} ^{らしゅ} ^よ 彼等主に^{しゅ} ^{これ} ^き 呼びしに、主之に聴けり、

アリル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 、

ア リ ル イ ヤ 。

【 福音經 (エヴァンゲリオン) ルカ福音書 76 端 14 章 16~24 節 】

代禱) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{でん} ^{せい} ^{ふく} ^{いん} ^{けい} ^{よみ} ルカ傳の聖福音經の讀、

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
主 光 榮 爾 歸 し 光 榮

はなんぢにきす。
爾 歸

代禱) ^{つつし} ^き 謹みて聴くべし、

誦經) 主は左の 譬 を設けて曰えり、或 人 大 なる 晩 餐 を設けて、多 くの 者 を 招 きたり。晩

餐の時に及び、其 僕 を 遣 して、招 かれたる 者 に 謂 えり、來 れ、蓋 一 切 已 に 備 われ

り。彼 等 皆 同 じく 辭 したり。第 一 の 者 曰 えり、我 田 地 を 買 いたり、往 きて 之 を 見 ん こと を

要 す、請 う、我 が 辭 する を 允 せ。他 の 者 曰 えり 我 牛 五 耦 を 買 いたり、是 を 試 み ん 爲 に

往 く、請 う、我 が 辭 する を 允 せ。又 他 の 者 曰 えり、我 妻 を 娶 り たり、是 の 故 に 來 る 能 わず。

其 僕 歸 りて、之 を 主 に 告 げ たらば、家 主 怒 りて、其 僕 に 謂 えり、速 に 邑 の 衢 と 巷

と に 出 でて、貧 乏、廢 疾、跛 者、瞽 者 を 此 に 引 き 來 れ。僕 曰 えり、主 よ、爾 の 命 ぜ

し 如 く 行 いたれども、尚 餘 れる 座 あり。主 は 僕 に 謂 えり、道 路 及 び 藩 籬 の 間 に 出 でて、

入 らん こと を 説 得 して、我 が 家 に 盈 た しめよ。蓋 我 爾 等 に 語 ぐ、彼 の 招 かれたる 人 は、

一 も 我 が 晩 餐 を 嘗 め ざらん。蓋 召 されたる 者 は 多 けれど、選 ばれたる 者 は 少 し。

(比較用 口語訳) そこでイエスが言われた、「ある人が盛大な晩餐会を催して、大ぜいの人を招いた。晩餐の時刻になったので、招いておいた人たちのもとに僕を送って、『さあ、おいでください。もう準備ができましたから』と言わせた。ところが、みんな一様に断りはじめた。最初の方は、『わたしは土地を買いましたので、行って見なければなりません。どうぞ、おゆるしてください』と言った。ほかの方は、『わたしは五対の牛を買いましたので、それをしらべに行くところです。どうぞ、おゆるしてください』、もうひとりの方は、『わたしは妻をめとりましたので、参ることができません』と言った。僕は帰ってきて、以上の事を主人に報告した。すると家の主人はおこって僕に言った、『いますぐに、町の大通りや小道へ行って、貧乏人、不具者、盲人、足なえなどを、ここへ連れてきなさい』。僕は言った、『ご主人様、仰せのとおりにいたしました。まだ席がございます』。主人が僕に言った、『道やかきねのあたりに出て行って、この家がいっぱいになるように、人々を無理やりにひっぱってきなさい。あなたがたに言うて置くが、招かれた人で、わたしの晩餐にあずかる者はひとりもないであろう』。

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえいは
主 光 榮 爾 歸 し 光 榮

はなんぢにきす。
爾 歸